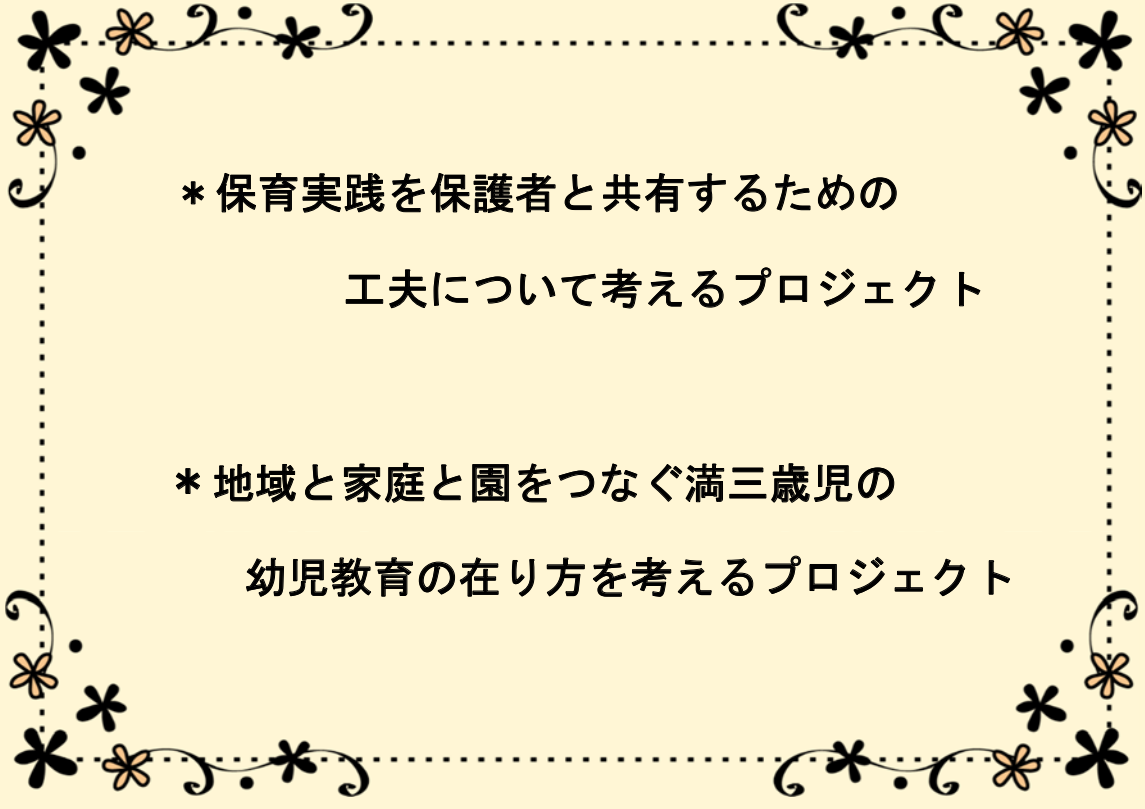


令和4年度・5年度

研修プロジェクト 報告書

A decorative border made of small black and orange flowers connected by dotted lines, framing the central text.

* 保育実践を保護者と共有するための

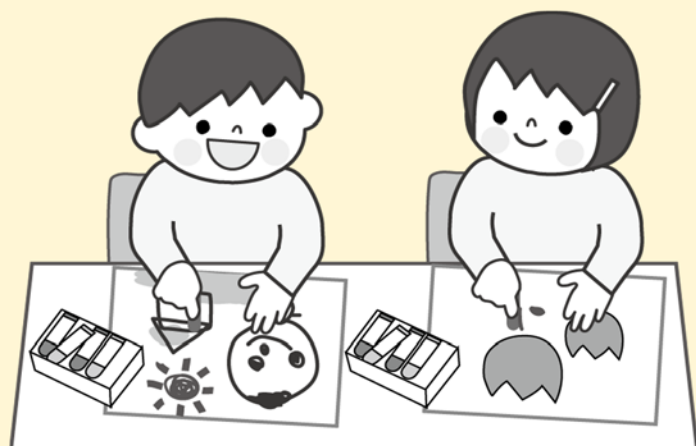
工夫について考えるプロジェクト

* 地域と家庭と園をつなぐ満三歳児の

幼児教育の在り方を考えるプロジェクト

一般社団法人 静岡県私立幼稚園振興協会

保育実践を保護者と共有するための 工夫について考えるプロジェクト



保育実践を保護者と共有するための 工夫について考えるプロジェクト

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	共有とは何か	1
第3章	プロジェクト委員の園での取り組み	
	～園の教育・保育理念や取り組みの趣旨を理解してもらうために～	2
	みのもり幼稚園 事例	2～ 3
	青葉幼稚園 事例	3～ 4
	とこは幼稚園 事例	5～ 8
	龍の子幼稚園 事例	8～10
第4章	課題、これからチャレンジしたいこと	
	～保育実践を共有することで深まる信頼～	11
第5章	おわりに	13

※ 2年間の活動経過

保育実践を保護者と共有するための 工夫について考えるプロジェクト

第1章 はじめに

幼児期の教育をより効果的に進めていくためには、園と家庭が子どもの育ちを共有することが大事であり、また、子どもの姿や成長だけでなく、園の保育実践がどのような願いやねらいを持って行われ、子どもの何が育っているのか等についての保護者の理解を深めていくことも大切と言えます。そこで、園の保育実践を保護者と共有するための工夫について、プロジェクト委員で実際に委員の園を見学し、自園での取り組みの工夫についての研究を行うものとなりました。

第2章 共有とは何か

まずはじめに、実際に委員の園ではどのような形で、保護者と保育実践や子育てそのものを共有しているかという点について話し合いを深めていきました。

普段の保育の中で、当たり前に行っているお便りや連絡帳など、そういった文章での共有から話を始めていき、そのような文章での共有にもやり方がいろいろあり、園から保護者の方への一方通行な共有でも良いのではないかとといった意見も多くみられました。一言で共有とは言っても形は様々で、園によってその方法は違います。

自園の良さや特色、子どもの育ちについて保護者の方々に理解していただくために、どのようなやり方でそれらを伝えているのかをプロジェクト委員の園を視察することで、保育をどう理解していただくか、どう伝えていくかを実際に見ることができました。

第3章 プロジェクト委員の園での取り組み

～園の教育・保育理念や取り組みの趣旨を理解してもらうために～

みのる幼稚園

みのる幼稚園では、毎週水曜日に海上コンテナを利用し作ったカフェを開放し、保護者の方やご近所の方などが自由に利用できるなどアットホームな幼稚園を目指しており、子どもも大人も楽しめる幼稚園づくりを心がけています。保護者との共有に関しては様々な取り組みをしています。

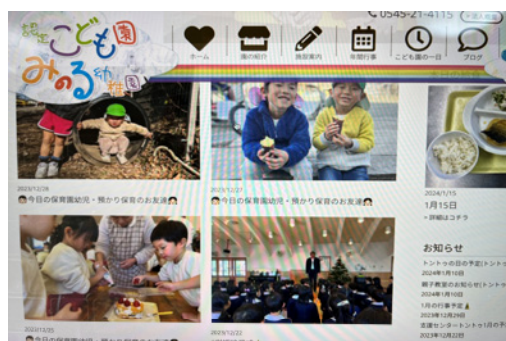
1. 園だより、学年だより

月に一回園だよりを配布し、その中で月の予定や誕生日の子どもなど、その月に必要なインフォメーションを全て記載しています。1ヶ月毎に園だよりを配布することでお仕事をされている保護者への配慮や、行事に関わる内容をお伝えすることができ、園と家庭での予定の見通しが良くなりスムーズに取り組めるメリットを感じます。また、クラスでの細かい様子や出来事はクラス毎にお便りを定期的に配布しお伝えしています。



2. ホームページのブログ

園や子どもたちの様子を伝えています。行事やクラスの様子だけでなく、保育の過程や保育者の思いを入れるようにし、保護者が子どもたちの思いや、保育者の思いを受け止めていただけるように工夫しています。また、ブログの更新頻度を増やし、イベントや行事の際はその最中に配信をし、リアルタイムで子どもたちの様子を写真や動画でお伝えしています。



3. アットホームな幼稚園を目指す

日頃より、保護者との会話やコミュニケーションを大切にしています。子どもの様子や心配事だけの面談や相談だけでなく、より近い距離感で保護者とコミュニケーションをとるよう心がけています。また PTA との BBQ や懇親会等、大人も楽しみながら子どもの成長を共有できるよう取り組んでいます。



青葉幼稚園

青葉幼稚園では、毎月の園だより、学年だより等の紙媒体の他、ホームページのブログ等様々な方法で園での子どもたちの様子を伝えています。その一部の取り組みを紹介します。

1. ドキュメンテーション

数年前よりクラスごとの保育や日々の様子を伝えるドキュメンテーションを取り入れ、参観会、懇談会、説明会等保護者が来園する際に掲示し、情報発信しています。その際には、行事や学年の様子だけでなく、保育の過程や保育者の思いを入れるようにして、より伝わりやすいよう心掛けています。また、作品展では園児個人ごとの絵画を展示していますが、担任が一人ずつの絵画活動時の様子や絵画のこだわりポイント等を書いたコメントを合わせて掲示し、子どもの一年間の成長が分かるようにしています。



ドキュメンテーション掲示



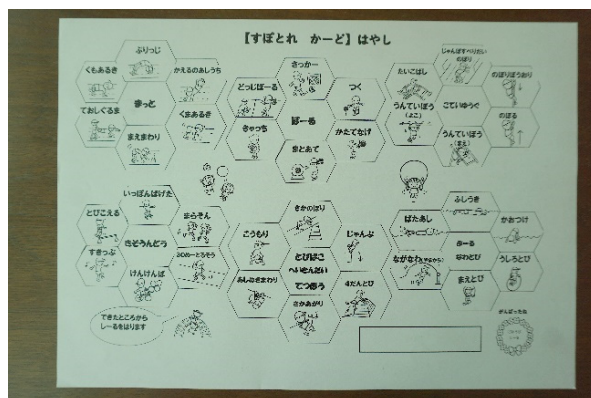
担任によるコメント

このように保育を見える化したことで、以前に比べ保育の共有ができるようになり、保育者と保護者とのコミュニケーションが増えたように感じます。また、常に掲示しているため、子どもたちも掲示を見ながら活動を振り返ることで会話が生まれ、それを保護者に伝える姿があります。子どもを通して保護者とのつながりも広がっています。

保護者からは「ブログやドキュメンテーション等で定期的に園の様子を伝えてくれるので、子どもの様子がよく分かる」という声をいただいておりますが、保護者が園に来る機会は多くなく、園からの発信が少ないのではないかと考えています。送迎でよく園に来る保護者とは話ができますが、年2回の個別懇談会時しか話す機会がない保護者もいて、関わりに差があります。保護者に園での子どもの様子を伝える方法を模索する中、令和5年度から2つの取り組みを始めました。

2. 「すぼとれカード」

今まで以上に子どもたちの体力向上やチャレンジ力を育むために運動カードを取り入れ、子どもたちの運動がどの程度できているのかという過程を園と家庭で把握できるようにしています。また、「すぼとれ通信」を学期に1回発行し、園としての思いを伝えるようにしています。



3. 縦割り活動の記録

これまでも縦割り活動は定期的に行っていましたが、さらに力を入れ、活動経過をドキュメンテーション形式に記録し、常に掲示し見られるようにしています。子どものつぶやきや会話を拾い、保護者に気づいてほしい子どもの思いや成長を伝えるようにしています。



4. 園外イベントへの参加

令和5年度には浜松駅ビルにてクリスマスコンサートを行い、歌や楽器演奏を披露する機会がありました。また、毎年浜松市私立幼稚園協会やしずおか子ども美術の会主催の絵画展に出品しています。このように、園外でのイベントにも積極的に参加し、多くの保護者や一般のお客様に見ていただく機会を設けました。実際に見ていただくことで子どもたちの自信につながり、保護者にもとても喜んでもらえているので、今後も続けていきたいと思っています。



メイワンクリスマスコンサート



浜松市私立幼稚園協会絵画展

とこは幼稚園

とこは幼稚園では、ただその時の保育を見てもらうだけでは保護者が視点を設けにくく
なってしまうため、保育実践を保護者と共有するために、どのような点に配慮して取り組む
ことが保育において重要であるか？幼児期に必要な育ちは何か？ここを保護者に理解して
もらい、園の保育方針、保育の中で大事にしている点等を案内文や、集会時等に繰り返し伝
えるようにしています。

1. 園だより園長挨拶文

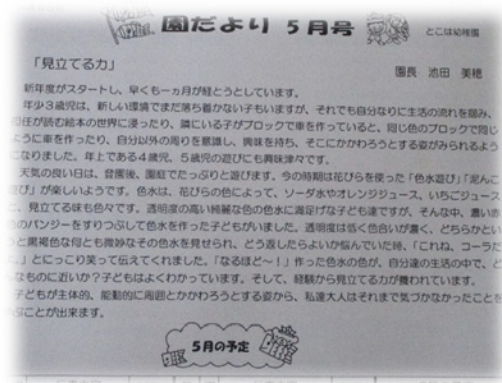
2020年より丸3年間、コロナ禍での生活を強いられることとなり、従来のような保護者
の行事参加がむずかしく、園での取り組みのねらいや園児の育ちに重要な職員の願いなど
が、伝えにくくなったため、毎月発行する『園だより』の冒頭部分に

- (1) 今現在の園児の育ちの方向性
- (2) なぜ、乳幼児期に子ども主体の保育が大事なのか
- (3) 園として何を大事に教育・保育をしているのか

以上の点を意識し、文章にて伝えるようにしてきました。

具体的には、園児のつぶやきや気づき、園児同士のやりとり、園児が生活の中で遊びを通し
て学んでいる姿、友達と協力している場面や試行錯誤している場面、どのような育ちの姿を
想像して保育実践しているか、などを記載しています。

行事開催後の保護者アンケートに「園だよりに掲載している園長のメッセージから、何を
大事に考えてこの日（行事）を迎えたか分かる。」という意見があり、毎回園だよりで（1）
～（3）について発信していたことが、ある程度保護者に伝わり、保育観の共有の第一歩と
なっているように思います。



園だより一例

2. ドキュメンテーションの活用

他園でも取り入れていると思いますが、0歳児～2歳児までは保護者が直接子どもを保育室まで送迎するので、各保育室入口に前日の遊びの様子の写真を、コメントを付けて掲示しています。他の学年はブログで伝えています。その際心掛けている点が、次の(1)～(3)です。

- (1) どのようなあそびに夢中になっているか
- (2) その時の子どもの心情の予想
- (3) そのあそびを通して子どもの何が育ちつつあるか

保護者に保育理解を求めるうえで、担任の、子どもに対する思いや、保育の意図性がわかるような掲示が効果的であると考えます。その日に何をして遊んだのか、どんな風に遊んだのか、より伝わりやすい工夫をするよう心掛けています。



2歳児ドキュメンテーション一例



5歳児のブログ一例

これらの取り組みについて保護者からの主な意見としては、

- ・園での様子がわかりやすい
 - ・園が大事にしていることが伝わってくる
 - ・実際に見ることが出来ないで、このような配信やブログの更新はありがたい
- 以上が挙がりました。

3. 動画配信アプリ『てのりの』の活用

2020年から新型コロナウイルス感染症罹患予防対策として取り組まざるを得なかった『密を避ける』取り組みから、それまでの様に参観会等で保護者が園に集う機会がほぼ無くなり、園での子どもたちの様子が見えにくい状態となりました。

リモートによる取り組みが広がる中、幼稚園でも『てのりの』という動画配信アプリを取り入れ、なるべく普段のあそびの様子や、ただ見せるためだけの行事ではなく、日頃子どもたちが興味を抱いて遊んでいたことを友達同士協力してやり遂げていく過程を含めて保護者にも見てもらい、一緒に楽しさを味わってもらおう工夫をしました。動画のため、子どもたちの会話も聞き取ることが出来、細かい様子まで伝わりやすい利点がありました。

4. 視覚への訴え

参観会等が少しずつ以前のようなスタイルで実施できるようになり、その時々の子どもの夢中になっているあそびについて、エントランス掲示板、廊下や階段の壁、廊下の天井、保育室入り口の壁やドアに子どもたちが夢中になって遊んでいる姿の写真を掲示し、その時の育ちについてわかりやすくコメントをつけてみました。

令和4年12月にサッカーワールドカップが開催された際、興味を持った年長男児数人を発端に、学年全体がワールドカップのことに夢中になりました。トーナメント表を作成し、試合が開催されるごとに赤いマーカーで勝ち上がりの国をマークしていく子、日本代表選手メンバーが誰か、選手の切り抜きを作り、名前とポジションを書き加えていく子など、それぞれが興味を持ったことを探求する姿がありました。自宅から新聞の記事の切り抜きを持参する子もいて、そのような子どもの姿から保護者は今、子どもたちが何に興味を持っているのかわかったと思います。ただし、それがいったい保育の中でどう動いているのか、実際に来園するまでは十分な理解が難しかったかもしれません。

実際に掲示されたものを見て納得する保護者がほとんどでした。

文章で伝えることも大事ですが、子どもたちの遊びに夢中になっている姿の写真に保育教諭の思いや気づきなどのコメントが添付されている掲示物は、保護者の関心度も高く保育の理解につながると考えます。



サッカーワールドカップ
トーナメント表



天井からつるした代表選手
クリスマスの雰囲気



2月には
鬼に変身

5. 保護者の保育参加からの保育理解

保護者もところは幼稚園の保育に『自ら』触れる機会を設けるため、令和5年度、2歳児クラスの保護者保育参加を再開しました。

限定した数か月の中で、保護者が参加可能な日を選び、その日はもう一人の担任として、朝から昼食時まで園児とかかわってもらいました。園児の午睡時間に担任と保護者とで子どものことやそのほか気になること等を話し合う面談時間も設けました。

コロナ禍では、密を避けることから、中止または少し離れて観てもらっていましたが、今回参加としたことで一部見えたことは参加者の園児が生き生きしていたこと、参加してくれた保護者も最後の方は保育教諭らしい姿に見えてきたことが挙げられます。

普段子どもたちが同じクラスの友達や保育教諭、他の学年の子どもたち、園内の環境に触れながら、どう自分の興味ある事に探求心を持ち関わろうとしているのか？子どもの育ちにおいて一番大事な部分を保護者も一緒に考えられる機会として、この参加会は有効に感じました。

また、保育教諭達の園児への配慮や対応についての理解も深まると思います。

今後、午睡時の寝かしつけまで参加してもらい、参加者の園児が保護者に背中をさすってもらいながら「今日一日、おうちの人と一緒に遊べて楽しかったな。」という満足感のなか眠りにつくことができれば、そこで親子の愛着やお互いの幸福感も更に増すのでは？と考えます。終了後に、担任からこの時期の愛着の必要性についても伝えやすくなり、その後の保育についても更に保護者理解が深まる可能性があります。

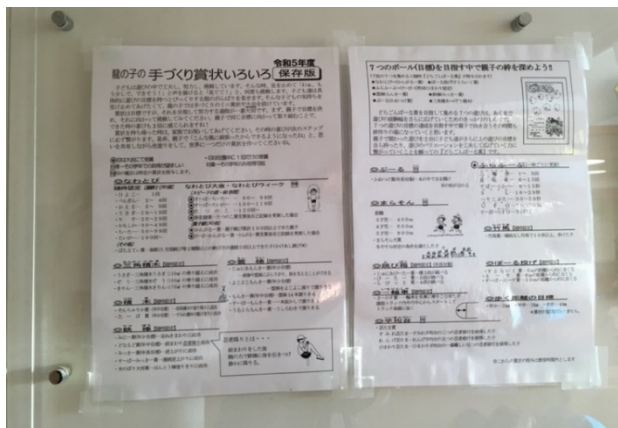
龍の子幼稚園

龍の子幼稚園では親子の絆作りを大切にしています。保育の共有に関係しているもので、本園独自のものをいくつか紹介します。

1. 賞状・運動あそび

本園では教育方針である3本柱の1つとして運動遊びがあります。この考えは、運動遊びは成果が目に見え実感できるため「子どもとの関わりのきっかけ」「気持ちの共有・共感」を強めること＝絆作りにつながるとの考えからです。さらにいうなら賞状の獲得というよりも、獲得まで親子で取り組んだ過程を大切にしています。

子ども達が見られるように掲示もしています



運動遊びには、鉄棒前回り＝どなると賞、連続逆上がり＝すーぱーみつき一賞、雲梯＝後ろ向き渡り＝うるとらもんき一賞など、各運動毎にそれぞれ賞状が設けられていて、賞状は日々職員が認定・授与し、家に持ち帰るようになっていきます。事前に配布されている賞状の一覧表を見ながら次の目標を親子で決め、獲得に向け取り組んでいます。

2. 園庭開放

上記運動遊び達成(賞状獲得)のために、園は親子で関わる時間(場所)を提供しています。

毎日 8 時～8 時 45 分、14 時～14 時 30 分 ※指定の駐車場に停めることが条件

毎月 2 回土曜日 8 時～9 時半

※事前申し込みが条件

これらの時間に職員は子どもの様子を伝えたり、運動に対するアドバイスをを行い共有を図っています。

また、担任以外の職員も賞状の認定を行うため、どの子どもがどの賞状を獲得しているかを職員室で記録、共有しています。



3. 参観会・参加会

本園は保護者が参加可能な行事として参観会と参加会の2種類があります。

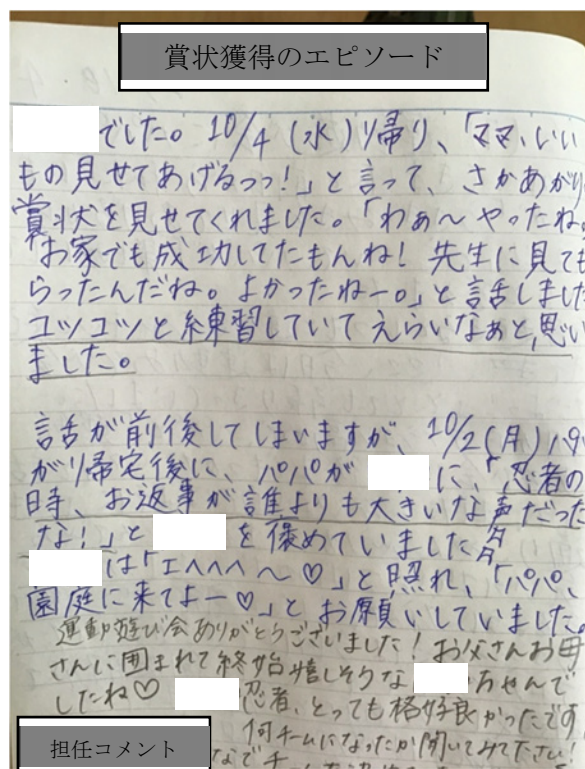
参観会は保護者も必ず参加してもらう行事で、参加会は保護者の参加は自由としていて、主にプール(保護者も入水)苗植え(野菜や花の苗を実施)園外保育(スーパーへの買い物、距離のある公園へのお散歩)他にもその年によって様々。元々幼稚園時代に参観会として行なっていましたが、2号認定児の保護者の参加が難しくなってきた背景があり、現在このような形をとっています。

4. 連絡帳「あゆみ」

本園の連絡票は育児日記のような意味合いも含まれています。家庭での子どもの様子や成長など保護者が記載し自由に提出でき、担任や関係する職員はコメントを入れ返却しています。素敵な内容のものや、特出している内容のものは他の保護者に見てもらえるように毎月発行の園だよりにて共有。これは親子の関わりのエピソードや、賞状の獲得状況などを知ること、他の保護者のスイッチになっています。

5. 職員研修

職員が受講・訪問予定の研修や連絡会を園だよりにて公開しています。研修の内容までは公開できていませんが、水曜日は1時間短縮日課となっており、その時間を研修に当てさせてもらっているため、公開することで保護者からの理解を得られるよう工夫しています。



職員も計測

6. 足裏測定・講演会

本園では裸足・草履保育を行っているのですが、数年前から足裏診断として毎年ヤマキ鍼灸整骨院さんに3～5歳児の足の裏の測定をしていただいています。これは足の正確なサイズ、指の角度（外反母趾）や圧のかかり方、土踏まずの形成具合を図と数値で見ることができます。※（「龍の子は裸足・草履保育のおかげか、他園よりも足の健康状態がとってもいい」と評価していただいています）

一人ひとり紙で印刷してもらえるので、職員が確認した後は、保護者に配布し状況を共有しています。外反母趾傾向が見られる子どもには草履を履く機会、より裸足で過ごす機会を増やし、土踏まずが未発達の子どもには靴を履く機会を増やすよう家庭と連携をとっています。また、後日ヤマキ鍼灸整骨院の院長先生が保護者向けに園内で測定結果の解説と講演会を開いてくださっています。講演内では足を見ることで、生活習慣や心の状態も把握できる方法も触れられています。この足裏測定は外部の機関と連携した情報共有になっており、また、保護者には園理念を理解してもらうことにもつながっています。



第4章 課題、これからチャレンジしたいこと

～保育実践を共有することで深まる信頼～

幼稚園として工夫する中での課題

1. 保育実践を共有するうえで必要なこと 園長の発信力、工夫

まずは、園長の揺るがない基本姿勢、これがなにより大事だと考えます。『あの星に向かって行こう！』と、目指す方向を指させるかどうか。それには、日ごろの保育を見て感じて、職員とのコミュニケーションをとり、何が大事か全職員が共通理解できるよう発信の仕方を工夫することが課題となります。幼稚園の基本理念、保育方針はコロコロと方向性が揺らいでは職員も自信をもって保育することが難しくなります。

2. 園からの発信が一方通行になっていないか

幼稚園として、どのような保育を大事にし、それが幼児期の育ちにおいて重要なことであり、生きる力の基となるということを紙面や行事の際に伝えていくことは必須であり、とても大事なことです。幼稚園からの一方通行となっていないかどうか。ここをとらえることがまずは必要と考えます。

例えば、行事の前に子どもたちの『プロセス』の部分を伝え、行事当日は保護者が直接園児の姿を見て感じ取ってもらい、行事後、そのことについて担任と保護者が会話できる機会を設けるなど、文章やブログの写真だけでのやり取りだけでなく、直接会話することでお互いがお互いの考え、思いに気づいたり何を大事にしているかを直接伝えやすくなったりするかもしれません。

3. 保育実践を共有することで深まる信頼

PTA と園側とのコラボ企画の取り組み ～ここは幼稚園の事例～

令和5年度には、以前より取り組みたいと考えていた（1）～（5）の企画を新型コロナが5類となったタイミングでPTA 本部役員、他の代表委員の保護者に相談してみました。

- （1）お月見お話し会
- （2）園庭バーベキュー
- （3）クリスマスペットボトルツリーひろば
- （4）園庭あそび DAY
- （5）星見会

企画に至った経緯として、コロナ禍で保護者同士のかかわりが薄れていたこと、同じ子育て世帯として、似たような視点で他愛ない会話が翌日以降の子育ての潤滑油にもなるであろうこと、形式的ではない集まりということにより深く幼稚園の様子が伝わるのではないかと、今後保育、家庭と園との連携に前向きに生かせるのではないかとこの思

いがあったからです。

実際にはまだ3回しか実施していません。

1回目は比較的過ごしやすい秋の夜長に『お月見お話会』として、読み聞かせ委員会の保護者ボランティアにもお手伝いいただき、絵本の読み語りや影絵あそび、親子や友達同士思い思い園庭の片隅で読んでみたい絵本を楽しみました。

2回目は、11月下旬に実施した『園庭バーベキュー』です。キャンプ経験の有無にかかわらず、親子でひと時を楽しみたいと思う家族が集まりました。

当日、体調を崩してキャンセルとなった家庭も多く、開催時期の再考は必要かもしれませんが、休日の日中、小さい子どもにも負担の無い時間で、実際にマッチを擦って火をつけたり、薪をくべて火力を強くしたり、食べたい食材を自分で焼いて食べるという事を、体験を通して学ぶ姿も見られ、幼稚園が保護者に伝え続けている『実体験を通した学び』が、親子のやり取りの中にも見られました。

3回目のペットボトルツリー作成では、ワークショップ形式で園児とボランティアの保護者で作上げていき、展示の際にボランティアで携わった他の子の作品を見つけて我が子との会話を楽しむ保護者の姿もあり、展示されたものだけを見て楽しむのではなく、制作過程の様子を重ね合わせて楽しみ、より保育に近い雰囲気味わった形となりました。

今後のコラボ企画においても、幼稚園が大事と考えている子どもの育ちに必要なあそびについて、親子の触れ合いの中でそれらが味わえる、なんとなくであっても肌で感じられる、この部分を参加者である保護者には感じて欲しいと願っています。

4. 共働き家庭への支援

園の理念や保育実践の共有が、増加している共働き家庭に対しては負担になっているように感じます。状況を見ながら、保護者の声を聞きながら、園の理念の浸透ができ、保育の共有ができる方法を探っていくことが必要だと感じています。

例えば、連絡帳に思ったことや感じたことをすぐに文字にできる保護者はいいが、書くことが苦手な保護者だと提出頻度や記載量も少なくなってしまうのが現状です。そんな保護者への対応として、懇談など話ができる機会を今よりも増やしていくことも必要だと考えています。

第5章 おわりに

2年間の研究プロジェクトを通して、園視察や話し合いの場で強く感じたことは、自園の特色を生かした保育をいかに発信できるかが重要であるということです。

保育実践の中での出来事や各園で工夫していることをまず保護者に伝えていくことが保護者が保育理解をする第一歩であり、そこから保護者の信頼や園に対する共感が生まれてくるのではないのでしょうか。

保育実践を保護者に伝える一つ的手段として ICT をうまく取り入れ、保育実践を保護者と共有するための様々な工夫が求められていると感じました。それと同時に、共有は一つの方法だけではなく多種多様に存在し、それを自分たちがどう活用するかが重要であると思います。それぞれの園に合った方法で保育実践を発信し、子どもたちの育ちや園の楽しさを保護者と共感していくことが大切です。

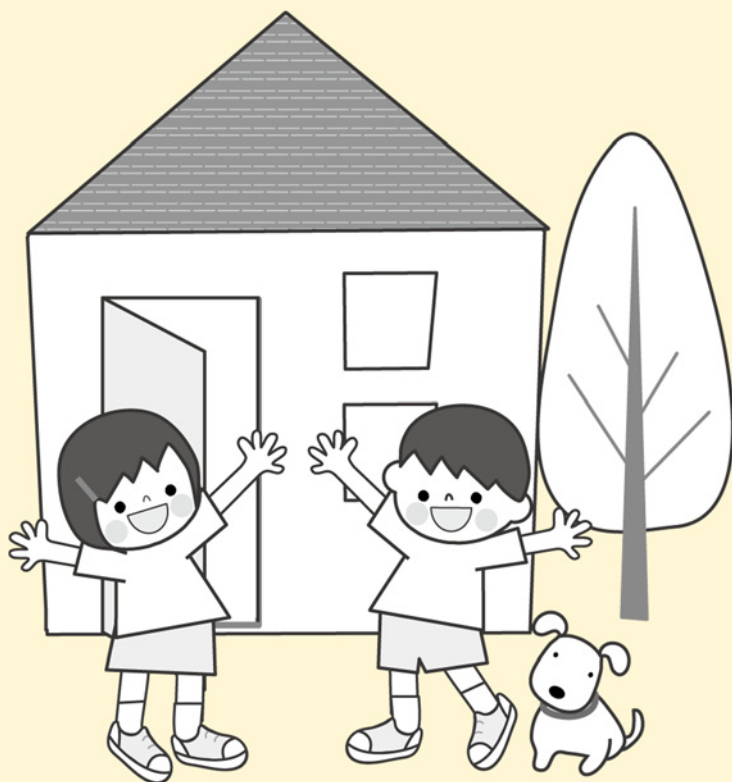
活動経過

第 1 回	令和4年 7月 5日 (火)	15:00～	私学会館
プロジェクトの進め方、共有とは何か			
第 2 回	令和4年10月25日 (火)	14:30～	私学会館
各園の概要、取り組みについて			
第 3 回	令和4年12月 7日 (水)	10:00～	とこは幼稚園
施設見学			
第 4 回	令和5年 1月12日 (木)	10:00～	龍の子幼稚園
施設見学			
第 5 回	令和5年 2月21日 (火)	10:00～	青葉幼稚園
施設見学			
第 6 回	令和5年 5月11日 (木)	10:00～	みのる幼稚園
施設見学			
第 7 回	令和5年 6月27日 (火)	14:30～	私学会館
各園の共有状況について			
第 8 回	令和5年 8月23日 (水)	14:30～	私学会館
各園の取り組みの共有			
第 9 回	令和5年11月 6日 (月)	14:30～	私学会館
報告書構成			
第10回	令和6年 1月16日 (火)	15:00～	私学会館
報告書構成			
第11回	令和6年 2月13日 (火)	13:00～	私学会館
報告書構成、まとめ			

プロジェクトメンバー

リーダー	田中 亮輔
委員	池田 美穂
委員	座光寺 敦士
委員	松下 佳世

地域と家庭と園をつなぐ
満三歳児の幼児教育の在り方を
考えるプロジェクト



地域と家庭と園をつなぐ

満三歳児の幼児教育の在り方を考えるプロジェクト

目 次

第1章	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	15
第2章	満三歳児クラスの状況&実態&改善点について ～プロジェクトメンバーの園の比較～・・・・・・・・	16～21
第3章	満三歳児クラスの現状（全県アンケート実施）・・・	22～27
第4章	これからの満三歳児クラスについて ～全県アンケート結果を受けて～・・・・・・・・	28
第5章	地域と家庭と園を繋ぐこれからの満三歳児教育とは？ ・・・・・・・・・・・・・・・・	29
第6章	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・	30

※2年間の活動経過について

地域と社会と園をつなぐ

満三歳児の幼児教育の在り方を考えるプロジェクト

第1章 はじめに

今回は、「地域と社会と園をつなぐ満三歳児の幼児教育の在り方を考えるプロジェクト」とお題をいただきました。新型コロナウイルスの影響もあり、地域や社会と園の距離が少し離れてしまったのではないかと予想しております。また近年では、幼稚園の形態も様々な形で運営され、保育が展開されております。3年保育の枠を越え、満三歳児クラスの需要が高まってきております。一昨年ほど前からは、満三歳児クラスが浸透していなかった東京都なども保育カリキュラムを作成し、急ピッチで満三歳児クラスを普及させる動向が多く見られてきています。満三歳を迎えると入園が可能となる満三歳児クラスですが、認可された当時は、単独クラスよりも年少児クラスの中に混合して保育をしている園が多かったと振り返ります。地域によって満三歳児クラスのニーズが高まり、単独クラスにする園も増えてきました。どれが正解なのか？様々な形態でクラス運営が行われてきました。4年保育と考えて満三歳児クラスを設立する園や満三歳になる前から受入れをする園も増えてきましたが、幼児教育無償化の影響もあり、満三歳を迎えて無償になってから入園を検討する保護者ニーズも重なり、園によって様々な対応になってきている現状もあります。そして、新型コロナウイルスや加速する少子化の影響を受け、正解がわからない時代にもなってきました。園児確保のための満三歳児クラスなのか？4年保育を見据えての満三歳児クラスなのか？各園が課題や疑問を感じているのではないのでしょうか。

近年、少子化が加速することも原因の一つとなって低年齢からの入園を検討して勧める園も増えてきました。その中で、満三歳児クラスの在り方、やり方を確立できずに悩んでいる園も増えてきている状況もあります。当時に比べて園の形態（こども園、幼稚園、保育園等）も様々になってきました。来年度からは、「誰でも通える通園制度（仮）」も施行され、世の中の保育のカタチ、保護者ニーズも変化を迎えるであろうと考えられます。その中で、満三歳児クラスをどのように運営していくのか？クラス編成、入園時期、募集時期、保育内容などをどのように考えていけばよいのか？そこには、地域性や園の規模なども関係してくるのか？プロジェクトメンバー4園の動向と県内私立園のアンケート結果をもとにまとめていきます。

第2章 満三歳児クラスの状況&実態&改善点について

～プロジェクトメンバーの園の比較～

保護者の就労状況の変化、教育に対するニーズの多様化が見られ、地域や各園の実態も様々である。地域や園に即して配慮された上で満三歳児にとってふさわしい生活の実践が望まれることから、まず各園の満三歳児クラスの「定員」「入園月」「保育料」「無償化と満3歳児の需要の関係」「満3歳児クラスの歴史」「改善点」などの実情について資料を集め話し合い今後の課題をまとめた。

中部 幼稚園 施設型給付

- ・満三歳児クラスの課題
 - 年少への接続（新入園児とのすり合わせ、基準はどこにするか？）
 - 月別入園によるまとめ方
 - 活動内容、教育内容（基準と目的）
 - この年代からの底上げに必要なことのすり合わせ
- ・入園する保護者のニーズ
 - 就労目的での入園は全体の2割以下
 - 兄弟姉妹が在園しているから入園する方が多い
 - 弟妹がいることで先に入園して同年代と関わらせたいとの希望
 - 年少児になる前に園生活に慣れさせたい
 - 無償化の有効利用
- ・満三歳児で身に付けたいこと
 - 生活習慣（挨拶、返事、聞く姿勢）、食事、排泄等
 - できることができるようにする
 - トイレトレーニング（友だちからの刺激からの成長）
 - 幼稚園が楽しいと体感できること
- ・満三歳児教育についてどんなアプローチ方法があるのか？＝あり方がゴール
 - 担任の適正
 - ・若手→年齢が近いので子どもが刺激されやすい、子育て経験が邪魔しないのもメリット
 - ・ベテラン→包み込めて安心する、保護者の方が相談しやすい（しかし、子育てしていたのは過去なのでメリットよりもデメリットの方が多いかも・・・、子育て論や方法も進化している）

→環境

- ・狭いよりも広い保育室の方が目線や視界も広がる
- ・年齢にあった机や椅子の設備は大事
- ・午睡の環境設定（自然と午睡出来る環境設定）

→年少への進級

- ・クラス分け→全員同じクラスで継続保育か？半々にしてクラス分けがいいのか？
- ・新しい担任との連携（満三歳児の担任を経験した先生の方が適任なのかも）
→環境変化は大事、年中年長への進級と同等と考えることは大事である
→しかし、新入園の園児&保護者の方との融合も大事
- ・満三歳児を前面に出していくこと
- ・4月はサポートの先生をつけてフォローしていく

→月別入園の＋－について

- ・1人1人の園児や保護者と丁寧にかかわることができる（信頼関係ができる）
- ・イベント等の組み込み方が事前に入園月がわかっている場合でも難しい場合が出てくる
- ・入園してからの登園降園時間の時差対応
- ・アレルギー対応の共有

→家庭とのつながりや保護者の方が求めていること

- ・れんらくちょうや電話、対面での話を大事にしている
- ・トラブルも多いので丁寧に対応していく
- ・就労されている方も保育園ではなくて幼稚園の教育内容や方針に賛同してくれて入園して頂いている家庭ばかり、そこを基準として連携をとっている

中部 幼稚園 施設型給付

- ・満3歳児単独クラスにて15名までの園児を一人担任で運営。園児の様子に応じて補助職員を配置している
- ・入園は満三歳児の誕生日以降
- ・保育料は無償化の対象
- ・満三歳児の需要はあると感じる。保育料の無償化も理由のひとつではあると思うが、そればかりではない。「共働き」「集団に慣れさせたい」「母の心理的負担軽減」など多様化している。
- ・基本的生活習慣を身につけること
- ・社会性（集団に目を向ける）友だちと一緒に行動する、並ぶ、順番、待つ、コミュニケーションなど
- ・「幼稚園」の特性、教育的意義も大切にしていきたい

【課題】

- ・入園時の個人差が大きい（特に生活習慣において）
- ・担任と補助職員の意思疎通、子どもに対する共通理解

- ・年少カリキュラムとの兼ね合い（毎年、確認しながら進めていく）

中部 幼保連携型認定こども園

- ・満三歳児の需要は少ない。3 号認定 2 歳児が在園しているが、2 歳児からの入園希望も少なく、0.1 歳児の問い合わせ希望が多く保育園需要が高い地域。子どもが少ない地域でもある
- ・その年の人数、園児の様子より満3歳児クラスのカリキュラムを編成している
- ・2 歳児との合同保育も行い年少児への接続を考慮して保育している
- ・幼児教育の大切さを伝えるために説明会のあり方を考える必要がある
(当園では現在満3歳児入園希望者に特化して行っていない)

【課題】

- ・保育所の2歳児、こども園の2歳児、幼稚園の満3歳児の保護者理解
- ・幼稚園は行事が多いイメージが強く保育所希望が多い
- ・年少クラスへの接続、発達の特徴とねらいを再度捉えて保育に当たる事、実際の発達の姿、子どもの姿を捉えて保育にあたること
- ・入園する保護者のニーズが多様化している
- ・伸び伸びと遊ぶ中で好きな遊びを楽しみ、先生や友達と関わり・生活習慣を身につけることに重点を置いている

西部 幼稚園 施設型給付

- ・少子化になることを予測し、平成20年からスタートした(20名定員)
- ・4月、6月、9月と3つの入園月を分けていたが、現在は4月と9月の2つの入園月となっている
- ・現在では無償化の対象外の保育料の保護者負担を軽減し、また11時間開園していることにより就労される方のニーズ応える事ができ、入園数が安定してきた
- ・満三児クラス単独クラス 2クラス 40名定員
- ・誕生日前からでも入園できる
- ・どちらかというとも基本的習慣を身につける方に重きをおいている

【課題】

- ・2歳で入園してくる子供などで、まだまだ成長途中なのか発達の遅れなのか判断が難しい
- ・4月から入園しても9月になって新しいお友達が入ってくると、リセットしてしまう
- ・まだまだ二歳児は保育園やこども園しか入れないというイメージがある為、入園説明会などで話をしても、あまり関心を持ってもらえない

●話し合いの結果からの課題

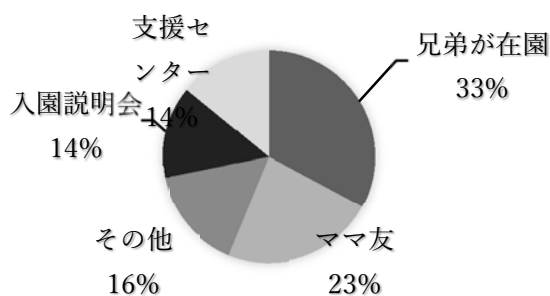
- ・保育園との差別化を図り、幼児教育の大事さを保護者に知ってもらい満三歳児クラスのニーズを高めるために必要なことは何か
- ・保育料無償化と満三歳児入園は関係性があるのか
- ・時代と共に満三歳児クラスは重要視されているようにも感じるが、教育内容は何に重点を置くのか
- ・満三歳児クラスの認知度を高めるためにはどうすればいいのか
- ・満三歳児の園児、保護者の方とのかかわり方はどうあるべきか

4園の実情が見えてきたところで、保護者の満三歳児クラスのどのようなところに関心を持っているのかを知るために、各園で昨年度の満三歳児保護者を対象にアンケートを実施しました。

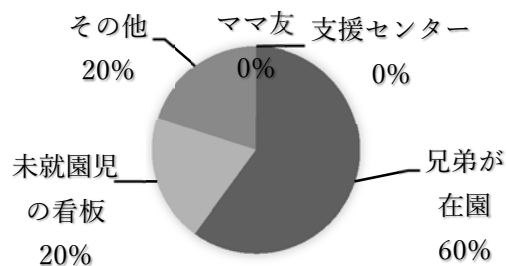
質問は以下の4問に絞って実施しました。

Q1：満三歳児クラスを何で知りましたか？（ママ友・支援センター・兄弟姉妹が在園・その他から選択）

○幼稚園



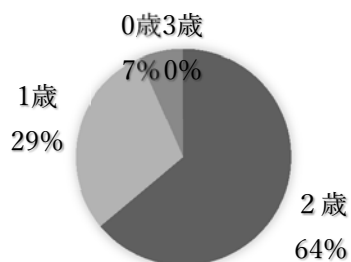
○こども園



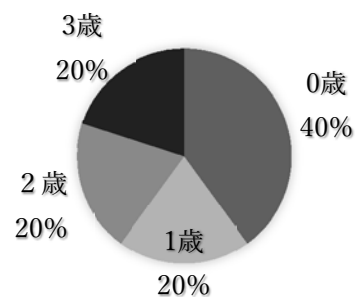
・幼稚園・子ども園ともに、兄弟姉妹が在園という回答が一番多く、次に幼稚園ではママ友やその他（直接園に問い合わせたり、HPを見て）、子ども園では看板が多かったです。

Q2：満三歳児クラスへの入園を考え始めたのはいつ頃ですか？（0歳・1歳・2歳から選択）

○幼稚園



○こども園

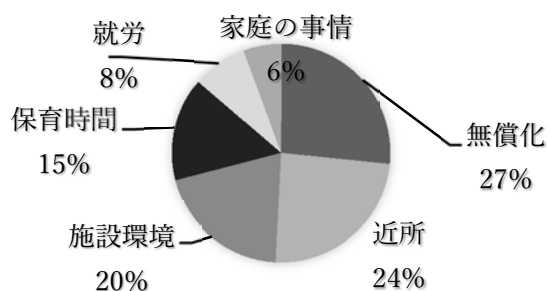


・幼稚園は、「2歳」という回答が多く、「0歳」、「1歳」は少なかったですが、子ども園は「0歳」が多く、違いが見られました。地域によって、子ども園は保育園需要のほうが高いのではないかと推察されます。

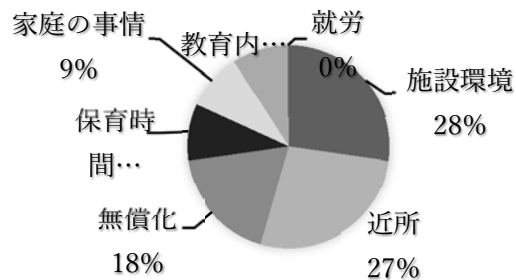
Q3：入園するにあたって重視したことは？

（無償化・保育時間・施設環境・近所・就労の為・家庭の事情から選択）

○幼稚園



○子ども園



・幼稚園、子ども園とも施設環境・無償化・近所が多く就労が少なかったことは意外でした。

Q4：満三歳児クラスに求めることは何ですか？（自由回答）

- ・家庭内保育ではできない遊びや経験
- ・集団生活を知り、慣れること（母子分離）
- ・支援センターなど交流の場に行くことが苦手で同年代の友達が全くいなかったので、友達との関わりを経験して欲しい
- ・友達との交流、先生との時間を楽しむこと。幼稚園が楽しいと思えるような時間を過ごして欲しい
- ・年少の前にプレ的な位置づけで、トイレトレーニングや着替えなど親だけではうまくいかない時に一緒に行って欲しい。（育児のサポート）
- ・友達から刺激を受け成長のきっかけやスムーズに年少へと繋がっていける環境
- ・個々の成長に合った保育
- ・自分でできることを少しずつ増やして、自信に繋げていけること
- ・行事への参加

○アンケート調査から

園の形態、地域ごとの置かれている環境にもよりますが、満三歳児クラスに対する関心・ニーズは高いようです。しかし、情報を得る手段については在園児の保護者やママ友、幼稚園の看板からという比較的狭い範囲での手段が多く、地域社会における満三歳児クラスの認知度はやや低いと感じました。

入園するにあたって重視することについては、「近所（職場からも含む）」、「施設環境」の他に「無償化」について関心を寄せる結果もありました。また、アンケート結果で「就労」の割合は多くありませんでしたが、夫婦で仕事を続けながら子育てをしている家庭もあり、子育ての在り方が多様化していることも改めて感じました。今後は就労を理由に満三歳児クラスに入園する割合も増えてくるのではないかと思います。

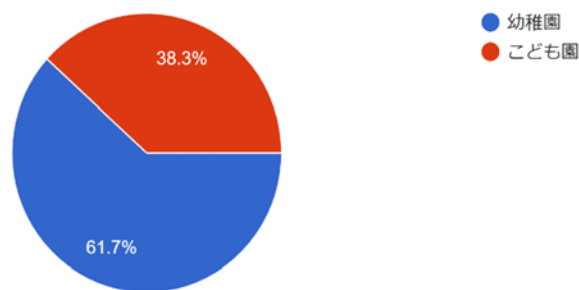
満三歳児クラスに求めることについては園の形態、地域ごと置かれている環境によって多少の違いはありましたが、概ね「家庭ではできない体験をさせて欲しい」「社会性が身につくようになって欲しい」「基本的生活習慣を身につけさせたい」「集団生活に慣れて欲しい」「友達や先生と楽しく過ごして欲しい」でした。この点については、「一人一人を丁寧に支えながら集団生活を送れるような保育実践を心掛けていこう」という各園大切にしている事と一致していると感じました。

第3章 満三歳児クラスの現状（全県アンケート実施）

プロジェクトメンバー（4人）で各園の満三歳児クラスの現状を話し合いましたが、地域や園の形態（園児数、施設）でニーズや運営方法なども相違することがわかりました。それも踏まえて、協会加盟園に満三歳児クラスについてアンケートを実施させていただきました。アンケートへのご協力ありがとうございました。ご回答いただいたアンケート結果をもとにして問ごとにまとめてみました。以下をご覧ください。

問1 貴園の施設形態を教えてください。

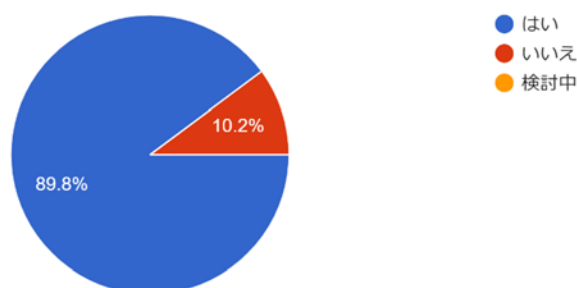
128件の回答



- ・こども園へ移行した施設も多く、割合的にも6：4となっている。
- ・こども園の場合、2歳児（3号）と満三歳児（1号）が混在している。

問2 満3歳児クラスを実施していますか？

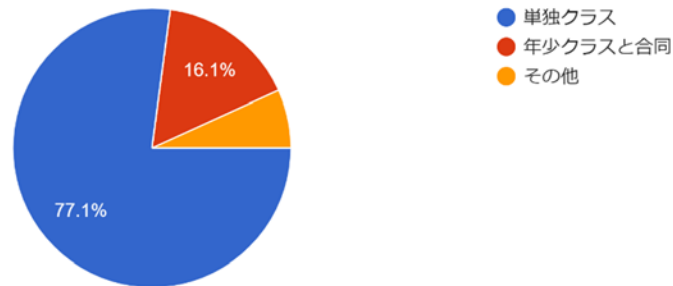
128件の回答



- ・全体の9割が満三歳児クラスを実施している。
- ・実施していない園は、「空き部屋がない（実施するなら単独クラスを希望のため）」
「職員確保が難しい」との理由が挙がっていました。

問3 満3歳児クラスの形態を教えてください？

118件の回答



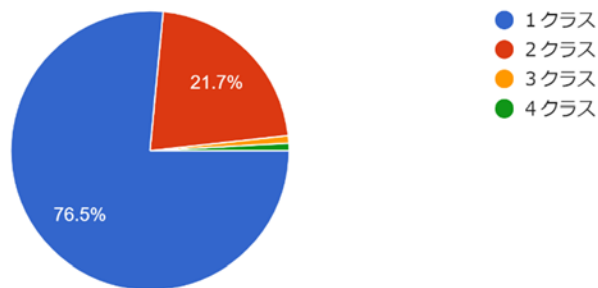
- ・その他については、主に「2歳児と一緒にクラス編成の形態にしている。（こども園）」と理由が挙がっていました。
- ・満3歳児クラス設立当初は、年少と合同でクラス編成していたが、需要が増えてきたため、単独クラスに変更したとの回答が多くありました。
- ・月齢によって保育内容で差が出てしまうことがあるため、単独クラスで運営している園が多く見られました。

●問4 満3歳児クラスの定員を教えてください。（グラフなし）

- ・10人以下に設定している園もありましたが、平均的に10人～25人の定員で設定している園が多く見られました。
- ・定員を40人（最大）に設定している園が3園ありました。（3園とも2クラス編成。）定員を多く設定している園は、4年保育を見据えて満3歳児クラスの理解を深めることが大事である、園児募集も見通しをもつことが出来るとの意見がありました。
- ・こども園だと2歳児との兼ね合いから満3歳児クラスの人数を制限しなければいけない現状があることや、2歳児とは別クラスで運営しているケースもあって教職員不足という問題も浮き彫りになっているケースもあるようでした。

問5 満3歳児クラスのクラス数を教えてください？

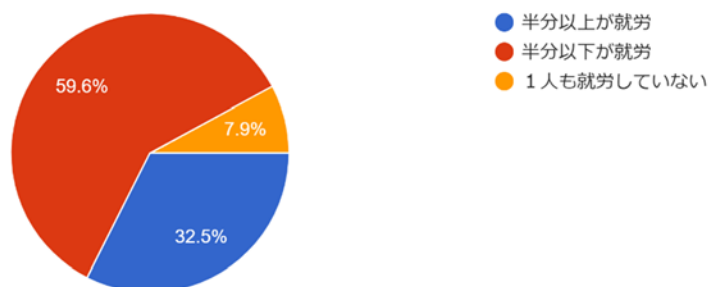
115件の回答



- ・ 8割近くの園では、1クラスのクラス編成となっていました。（定員が20人前後の園）。
- ・ 3クラス、4クラス設定している園もありましたが、基本年少と合同クラスで編成している園がほとんどでした。
- ・ 満3歳児のみの単独クラスでは、最大2クラス編成（1クラス15人～20人）となっていました。

問6 満3歳児クラスに在園している保護者の方の就労状況を教えてください？

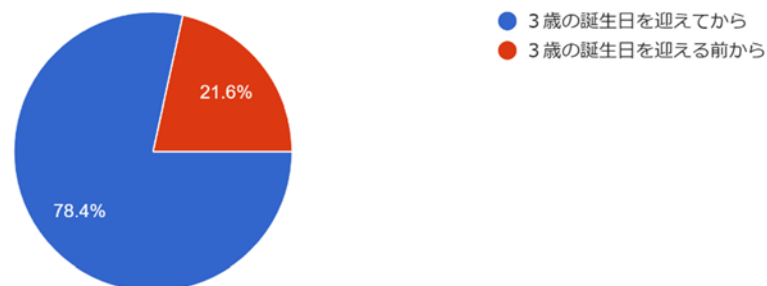
114件の回答



- ・ 地域などで満3歳児クラスに求められるニーズも相違があるが、就労することが目的というよりも無償化も重なって満3歳児クラスを検討し、入園する方が多くみられました。
- ・ プロジェクトメンバーの園で満3歳児クラスに入園した保護者の方へ入園理由を調査しました。兄弟姉妹が在園している、無償化、家庭の都合、就労などの回答がありました。就労と回答された方は、30人中3人でした。（地域によって相違はありますが、様々なニーズがあることが調査によってわかりました。
- ・ まだ、あくまで1号という認識の方が多く、「満3歳児になったら入園できるならする。」と考えている保護者の方が多いと考えられます。

問7 満3歳児クラスへの入園時期を教えてください？

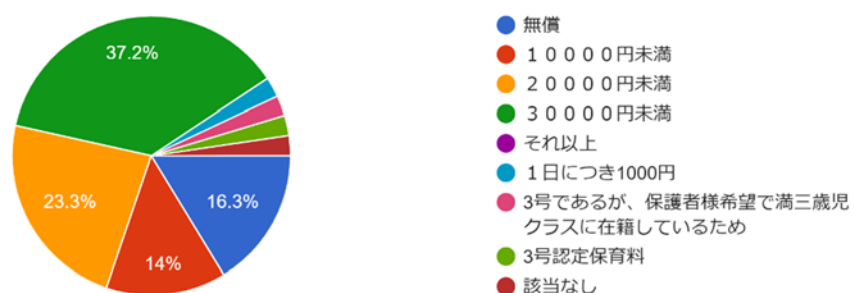
116 件の回答



- ・満3歳の誕生日を迎える前から受入れをしている園も年々増加してきています。（一時預かり事業を利用する等。）しかし、満3歳児にならないと無償化の対象とならないため、満3歳児前に入園するというニーズはまだ少数であります。
- ・静岡市は、第二子以降で共働きの就労条件を満たしていれば0.1.2歳保育料無償となりました。（令和5年4月～）この影響もあり、今後は満3歳を迎える前に入園を検討する保護者の方も増えていくのではないかと予想されます。しかし、地域によって相違が出てくると考えられます。

問8 3歳になるまで（無償化）の保育料を教えてください？

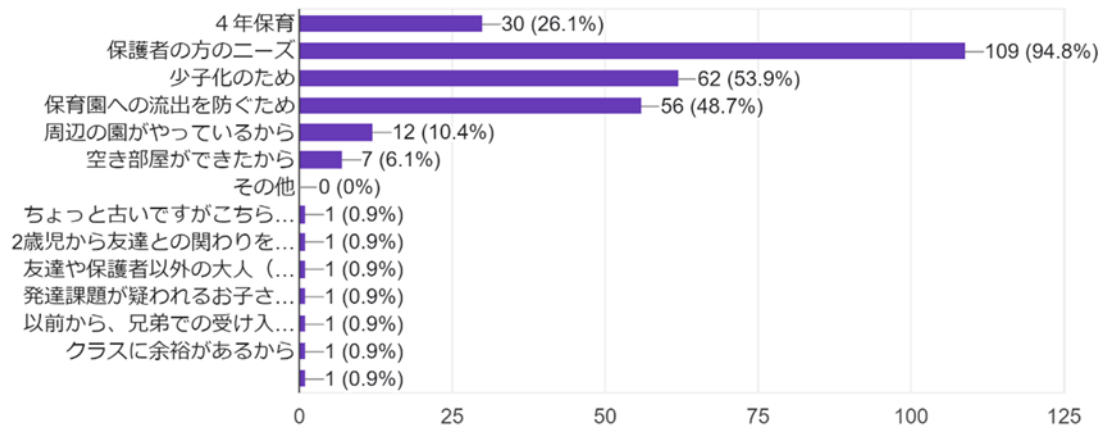
43 件の回答



- ・問7で満3歳を迎える前から園児を受け入れていると回答があった園に無償化になる前までの保育料について質問をしました。
- ・満3歳を迎える前までも無償で受け入れている園も16.3%ありました。
- ・無償化になる前の価格だと20,000円～30,000円が妥当とは考えられるが、20,000円未満の園も約37%あり、無償化による価格崩れが起きている。また、年少を見据えると低い保育料でも満3歳児を獲得しておこうと考えているという回答もありました。

問9 満3歳児クラスを実施している理由や考え方を教えてください？

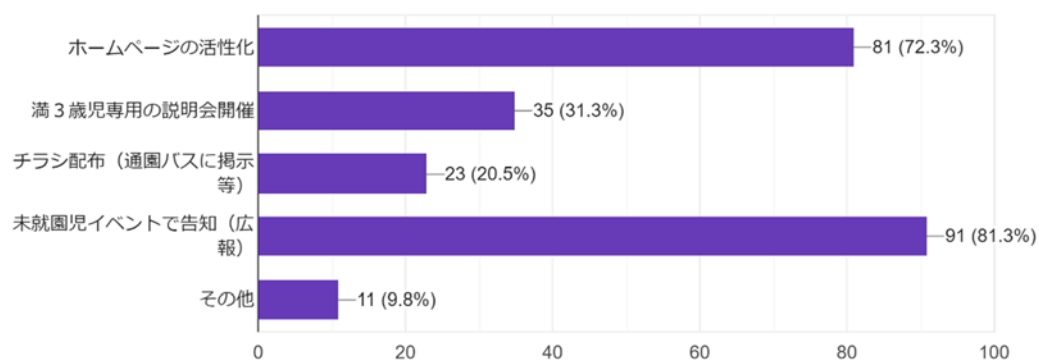
115件の回答



- ・平成12年に満3歳児クラスが認められてから年少入園よりも前に入園させたいとのニーズが年々増加してきて、定着してきたことが実施している理由から見られる。
- ・4年保育も見据えてきた中で幼児教育無償化がスタートしたことで保護者ニーズも増加していました。
- ・ここ近年は、少子化による園児確保や保育園への流出を防ぐために満3歳児クラス定着を進めている園が増加してきている。
- ・満3歳児クラスがインフラになりつつも少子化の影響や共働き世代の0．1．2歳保育料無償化の影響も含めて実施理由も変化してきている。

問10 満3歳児クラスの認知度を上げるために何か行っていることを教えてください？

112件の回答



- ・満三歳児クラスの認知度は、未だに低いと言われている中でホームページでの広報や未就園児イベントでの告知を重点的に行っている園が多いことが上記の回答から見受けられます。しかし、未就園児イベントに参加する親子も年々減少傾向であるために、認知度を上げていくためには違う方面からアプローチもしていかなければいけない現状も見られます。
- ・満三歳児クラスのみの入園説明会の開催は有効的だとの回答も多くありました。入園説明会で保護者ニーズを上げていくことが入園に直結することに繋がると定員を多く設定している園からは意見がありました。

第4章 これからの満三歳児クラスについて

～全県アンケート結果を受けて～

今回のアンケート結果やプロジェクトメンバーの園の現状などを元にこれからの満三歳児クラスの在り方について考えてみました。

まず、今回この満三歳児クラスの現状で1番初めに感じたことは、数年前に比べ各園での満三歳児クラスの実施が、9割という事で圧倒的に増えているという事です。

恐らく10年前には5割にも満たしていなかったのが、ここ数年でどの園でも実施する様になったと思います。

その背景には、様々な理由があると思いますが、大きく分けて2つに分類してみました。

1つ目は、従来の3歳児保育よりも前に『教育を受けさせたい』や、『集団生活に早く慣れさせたい』というニーズからの入園です。

こちらは園側としても本来の満三歳児クラスの在り方というか、そもそも満三歳児クラスを立ち上げた1番の狙いになる園が多く、計算できていた部分となります。

プロジェクトメンバーの園では、近年の少子化になる前という事もあって、割と高い保育料の設定でも入園を希望する子供たちが多くいたようです。今と比べると満三歳児クラスの認知度はだいぶ低かったが、人数と保育料を考慮すると安定した事業になっていました。現在は、認知度は以前に比べ相当上がってきたが、少子化により子供の数が減り、入園する子が減ってきているという現象になっていると思います。

2つ目は、ここ最近増えてきた保護者の方の共働きなどお仕事による託児を必要とされるご家庭の満三歳児クラスへの入園です。

こちらに関しては、2歳児で幼稚園に入園したり、預かり保育を積極的に利用するなど、1つ目の理由とは異なり、出産や育児を終えた方の社会復帰などに伴うどちらかという従来保育園に預ける様なニーズと思われます。

アンケート結果の、現在お仕事をされているほとんどの方は、この2つ目の理由が主になると思います。

ただこの場合、園選びの際に、日々の開園時間や長期休みの日程など条件面で選ばれる方が多くみられると感じました。

これ以外にも満三歳児クラスを利用される方のニーズはいろいろとあると思いますが、園として保育の質を高めていくのはもちろんですが、定員や職員配置、保育料などの徴収するもの、受け入れ時間や開園時間など、ニーズが多様化されてきた事によって多くの方に満足していただける満三歳児クラスを提供し続けるのは容易ではない様に感じます。

第5章 地域と家庭と園を繋ぐこれからの満三歳児教育とは？

このプロジェクトがスタートした2年前、まだ新型コロナウイルスの影響もあり、マスクでの生活、行動制限もありました。昨年5月より5類への引き下げとともにマスクの緩和や行動制限も解除されて、人の動きも活性化されてきました。幼稚園の行事なども人数制限の撤廃やマスク着用なしでの参加も可能となり、明るい雰囲気に戻りつつあります。その中で自宅にいたことが多かった0歳～3歳の親子が外出できるようになり、公園や地域の支援センターも混雑することも増えてきました。新型コロナウイルスの影響で形を変えて行ったイベントもありましたが、複数や個別での開催がトレンドとなった入園説明会などは、5類に引き下がっても形を戻さずに開催するケースも多く見られております。その中で満三歳児クラスへの需要も高まりつつあり、年少児からよりも満三歳児から入園する子どもの方が多くなってきていて逆転現象がみられていることも事実となります。今回、プロジェクトメンバー4園と県内私立園のアンケートを集計してみると、地域や園児数、園の規模によって満三歳児クラスについてのニーズが多様となってきていることが見受けられました。10年前は、保育園しか比較対象がありませんでした。しかし、現在ではあくまで1号認定となるため、こども園も比較対象になってきております。

満三歳児保育が始まった当初は、合同クラスが多かったことや保育内容を確立することも難しかったのだろうと振り返ります。保育園の2歳児保育を参考にしていた園も多かったと察しますが、3歳児（年少）を基準としてどこまで掘り下げていけばいいのか？試行錯誤して現在に至るのではないのでしょうか。そして、今では幼児教育無償化を受けて保育料の金額も下がってきています。しかし、保育内容や環境などは格段にレベルアップしてきております。満三歳児保育に求める保護者ニーズとして、「社会性を育んでほしい」「集団の中で約束を守れるようになってほしい」「コミュニケーション力を学んでつけてほしい」などの意見が多く、3歳児よりも満三歳から入園を希望する家庭も増えていくであろうと予想されます。そのことも視野に入れて4年保育を見据えて保育内容を確立していくべきだと考えます。また、満三歳の誕生月を迎える前の4月から子どもを受け入れている園も増えてきました。今後、入園の低年齢化も加速する可能性もあるので、満三歳児以下（満二歳等）のクラス編成なども早めから考えておく必要があるのかもしれません。

ここまで満三歳児クラスについてまとめてきましたが、「満三歳児」というネーミング自体がこの業界内の用語であって世の中には中々普及していないことも事実であります。（「年々少」とかの方がわかりやすかったのかもしれません。）地域や社会に向けて各園で満三歳児からの幼児教育として大事にしていることなどをより明確にわかりやすく伝えていくべきであると考えられます。地域にある支援センターなどとも連携して、必要としていらっしゃるご家庭に、より情報を伝えていくべきであります。各市町村や静岡県私立幼稚園振興協会も含めて、満三歳児クラスの存在をアピールして認知度を上げていくことが、より満三歳児の幼児教育の質の向上にも繋がるのではないかと考えております。今後、入園の低年齢化や様々なサービス、施設が増えてくると予想されております。その中で、どのようにアプローチしていくのか？満三歳児保育の確立が基本となってくるのではないかと考えます。

第6章 おわりに

今回、プロジェクトを進めていく中で地域や園の規模、形態によって満三歳児クラスの現状が多種多様であることが見られました。そのため、県内にある私立幼稚園へアンケートを実施させていただきました。ご協力のほどありがとうございました。様々なご意見をいただきましたが、どうなるのかわからない未来を予想しながら目の前にいる子どもたち、保護者の方、地域の方、園にかかわるすべての方と真摯に接することが大事であり、何度も形は変化しようとも園としての基盤や信念は崩さないようにしていくことが大事であると感じました。

このプロジェクトを通して満三歳児クラスの今後について知ることが出来ました。このことが協会加盟園の何かの参考になれば幸いです。今後、どのように保育のカタチが変化していくのか不透明なことも多々ありますが、現在のニーズに園として協会として応えていくことが大事ではないかと考えております。このような機会をいただけたことをプロジェクトメンバー一同、感謝しております。2年間ありがとうございました。

※2年間の活動経過について

令和4年度・5年度の会議及び内容については下記の通りでした。

- ・第1回 プロジェクト 令和4年7月 5日（火）15：00～
 - ・プロジェクト設置の趣旨について
 - ・プロジェクト活動の進め方について
- ・第2回 プロジェクト 令和4年10月 7日（金）14：30～
 - ・各園での満三歳児クラスの状況について
 - ・今後の方向性について話し合う
- ・第3回 プロジェクト 令和4年12月19日（月）14：30～
 - ・満三歳児クラスの課題について
 - ・現状報告と今後の方向性について話し合う
- ・第4回 プロジェクト 令和5年4月 4日（月）15：30～
 - ・アンケート内容確認（各園の保護者の方へ）
 - ・満三歳児クラスの在り方について
- ・第5回 プロジェクト 令和5年6月 5日（月）14：30～
 - ・全県アンケート内容について（満三歳児クラスの現状）
 - ・プロジェクトのまとめに向けて
- ・第6回 プロジェクト 令和5年 8月10日（木）14：30～
 - ・アンケート集計とまとめ方について
- ・第7回 プロジェクト 令和5年10月13日（金）14：30～
 - ・プロジェクトのまとめと考察
- ・第8回 プロジェクト 令和6年 1月15日（月）14：30～
 - ・プロジェクトのまとめ、冊子校正

プロジェクトメンバー

リーダー	松本	幸真
委員	仲田	留未
委員	清野	美栄子
委員	山口	仁

令和4年度・5年度

研修プロジェクト報告書

令和6年3月

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会
〒420-0853 静岡市葵区追手町9番26号
電話 (054) 254-6820 FAX (054) 255-3694
